

## 副作用に介入して治療継続へ貢献

プレアボイドとは薬学的ケアから患者の不利益（副作用、相互作用、治療効果不十分など）を回避あるいは軽減した事例を意味します。今回は患者のバイタルサインの情報を確認することで副作用対策に介入できた例を紹介します。

### 患者背景

- ▶ 卵巣癌
- ▶ 外来にて化学療法中  
(パクリタキセル+アバステン)

Aさん



### 外来化学療法室の指導前のカルテ確認中

Aさん、今日の診察時の血圧、収縮期169mmHg、拡張期は85mmHgか…。降圧薬は何か飲んでいるだろうか…？

薬剤師

薬剤師が薬剤管理指導に訪室

Aさん、少し血圧が高くなっているみたいですね。他の病院から血圧を下げるようなお薬は出ていますか？

Aさん



今まで特に血圧が高いって言われたこともなくて、血圧を下げる薬は飲んだことがありません。

薬剤師

### 医師へ提案

Aさんの血圧が高値であったようですが、アバステンの副作用ではないでしょうか？ARB※などの降圧薬は不要でしょうか？

医師



今日、オルメサルタン錠を出して次回外来時まで様子を見てみましょう。

薬剤師

Aさん、今日から血圧を下げるお薬が追加になります。自宅に血圧計はありますか？お薬の効果も確認したいので次回の外来まで毎日血圧を測るようにして記録しておいてもらえますか？

Aさん



血圧計は家にあったと思うので記録してみます。

服用開始後の初回外来でまだ血圧コントロールは不良であったため、循環器内科を受診しアムロジピン OD 錠も追加となり血圧コントロールは良好となった。

抗がん剤の副作用に介入することにより治療を継続することができた。